
たったそれだけ

東雲 春霞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たつたそれだけ

【NZコード】

N4065M

【作者名】

東雲 春霞

【あらすじ】

好きな人と話している人を見て嫉妬してしまう話。ノンフィクションです。

(前書き)

」の気持ちを共感していただけたら幸いです。

私は歩いていた。自分の教室、4組を出て同じ廊下に面している7組へと向かっていた。

側には友人の夏美がいた。ニヤリと笑つて「いたよ」と言つが明らかに私をからかっている口調だった。

私は「あつそ」と冷たい返事をしながら顔を少し赤くさせて7組の入り口から顔を背ける。

「早く入んなよー！こんなとこに突つ立つてる方が怪しつて」と言いながら背中を押してくれる。

入るまいとした私とちよつと小競り合つたあとあの人を探した。

「部活の助つ人に来てほしいんだけど」

この一言が言えるようで言えないから困つていた。

私はあの人を見つけた瞬間世界が止まった。空気が一変した。なにか体から力が抜けていく、絶望感が妙に溢れていた。

ジワリと痛い。胸がギュウツとなる。

「…………」

私がそういうと夏美はわかつてないのか「えーーー！？なんでえ？今ちょうど果穂が話しててちょうどいいじゃん！」と言つてきた。

…………ちょうどよくなんてない。むしろあんな場面は見たくないかった。女子どもか普段から人を避ける空気をだすあの人はなんで果穂ちゃんと話してたんだろ。

中学の時話して打ち解けるのには私は苦労したのに、いつもたやすく話す彼女が羨ましく、少し苦手になつた。

(後書き)

テスト中なのに書いたらいました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4065m/>

たったそれだけ

2010年10月10日05時21分発行